

12月9日(月)発売

 サンパウロ 新刊案内



## ローマの教会巡礼ガイド

ECCLESIA RV M ROMANAR VM DESCRIPTIO

高久 充 著

カトリック教会において、2025年は25年に一度の「聖年」と呼ばれる年である。2024年12月24日、教皇フランシスコによって、バチカンの聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」が開かれ、全世界で「聖年」が始まる。それは大いなる恵みの年の始まりである。

教皇フランシスコは、2025年の通常聖年公布の大勅書の中で、「すべての人にとって聖年が、救いの『門』である主イエスとの、生き生きとした個人的な出会いの時となりますように」と書いている。「聖年」は、キリスト教の中心であるローマの教会を訪れるのに絶好のチャンスでもある。本書は、写真と地図を多用し、77に及ぶローマの教会、5カ所のカタコンベを詳しく紹介する巡礼者必携の書である。

### 著書

『移動する聖所—エマウスの歴史の変遷』（豊田浩志編著『神は細部に宿り給う—上智大学西洋古代史の20年』南窓社、2008年所収）／『ポルトガル・トルレ・ド・トンボ国立公文書館所蔵「モンスーン文書」の研究と目録（vol.1-vol.30）』（研究分担者・岡美穂子、東京大学史料編纂所、2019年、共著）／『聖地巡礼ガイド—イエス・キリストの足跡をたどる』（サンパウロ、2020年）がある。

### 著者略歴

高久 充 (たかく みつる)

1978年 茨城県生まれ。  
2000年 筑波大学第一学群人文学類（ヨーロッパ史）卒業。  
2003年 上智大学文学研究科史学専攻博士前期課程（西洋史）修了。  
2006年 教皇庁立グレゴリアナ大学教会史学部修士課程修了。  
2012年 上智大学文学研究科史学専攻博士後期課程（西洋史）単位取得退学。  
2019年9月 教皇庁立グレゴリアナ大学教会史学部博士課程単位取得退学。  
2016年から2024年まで東京大学史料編纂所学術専門職員。  
現在 翻訳者、イエスのカリタス修道女会東京歴史記録保管所顧問、東京YMCA国際ホテル専門学校非常勤講師（イタリア語）。

### 訳書

「ピウス2世『覚え書第八巻』」（池上俊一監修『原典イタリア・ルネサンス人文主義』名古屋大学出版会、2010年所収）／使徒座裁判所ローマ控訴院『自発教令「寛容な裁判官、主イエス」適用のための手引』（教友社、2016年、共訳）／田中昇編『カトリック教会における婚姻—司牧の課題と指針—』（教友社、2017年、共訳）／田中昇編『カトリック教会の婚姻無効訴訟—ローマ控訴院の判例とその適用』（フリープレス、2020年、共訳）／阿部仲麻呂・田中昇編『カトリック教会は刷新できるか』（教友社、2023年、共訳）／教皇庁保健医療従事者評議会『生命倫理についての新しい指針—いのちと健康に奉仕するすべての人に向けて』（社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院監修、インターメディカ、2024年、共訳）などがある。

霊名はピオ（教皇ピウス1世）。2004年より2013年までローマ・カトリック日本人会世話役を務めた。

• A5判 • 350頁 • 並製 • 定価 3,080円（本体2,800円+税） • ISBN978-4-8056-9614-9 C0026